

# 用水と対応した耕地と敷地の構成

水路沿い雁木通りの在郷町〈稲田〉の居住特性に関する研究 その1

正会員 ○ 黒野弘靖\*  
同 高橋人志\*\*

水路 雁木 町家  
在郷町 土地所有

- 1. 研究目的** 上越市稲田は、関川を挟んで城下町高田の対岸に位置する在郷町である。街路の中央に大道用水が流れ、両側に雁木通りが並ぶ。大道用水沿いには洗い場や樹木が残る。この特徴的な街路景観を雁木町家と水路の対応関係に注目して分析することを目的とする。本編では耕地を所有していた雁木町家の敷地と道路、水路、土地所有との対応関係を明らかにする。
- 2. 調査概要** 2010年から2012年に稲田1丁目、2丁目、3丁目の53軒の配置図と7軒の平面図を実測した。明治期と昭和期の〈上稲田〉(稲田1丁目)地籍図を複写した。
- 3. 方向性と農業を営む雁木町家** 大道用水の上流側をカミ、下流側をシモと呼び、屋敷の大道用水側をオモテ、反対側をウラと呼ぶ。ウラ側は1965年の住宅地開発以前には水田となっていた。26軒が水田を耕作していた(図1)。上稲田では農業に携わる雁木町家をもっとも多かった。
- 4. 二種類のミチ** 北流する大道用水の両側にミチが通る。角橋(カクハシ)のカミでは東側が県道、シモでは西側が

- 県道に指定されている(図1)。1893年の地籍図には角橋のカミの西側に道路は描かれていない。しかし1929年の絵図から、用水の両側にミチがあり雁木町家が軒を接していたとわかる。屋敷間には数軒ごとに雁木通りからウラ側耕地へ抜けるサクバミチが通されている(図1)。
- 5. 二つの用水** 大道用水は、稲田の上流にある子安新田や下流にある中々村新田を灌漑するため慶安年間(1648-1652)に開削された。上稲田は17世紀後半の絵図には御部屋組と書かれている。稲田の耕地へ大道用水から水は引かれていない。東側を流れる子安用水からの水路により灌漑されていた(図2)。1984年まで2ヶ所の掛樋と埋樋で大道用水を横断していた。角橋のカミ側は東側屋敷ウラに水路が流れる。角橋のシモ側では西側屋敷のウラ側に水路が流れる。関川沿いの段丘状の地形に対応していた。
- 6. 所有耕地の広がり** 農業を併用する雁木町家の耕地は大道用水の両側に分散していた(図3)。大道用水西側の〈下稲田裏〉には苗代田が集まっていた。生産耕地は、大

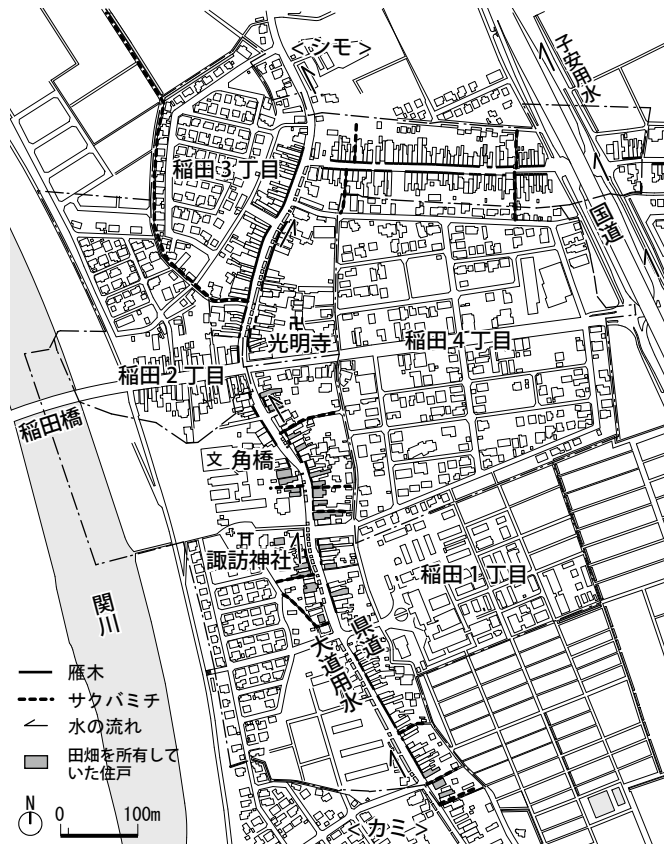


図1 町内会の範囲 2012(平成24)年

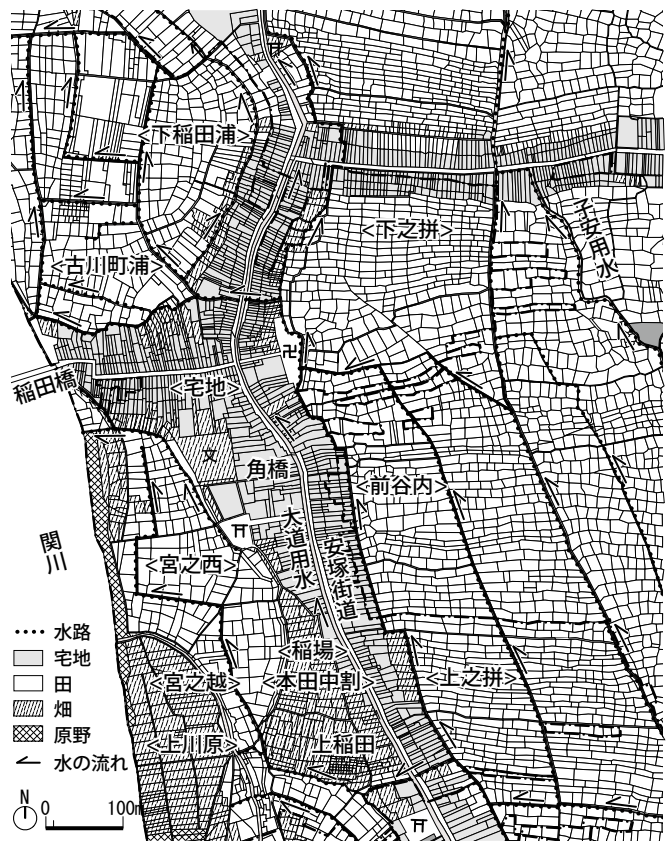


図2 大字〈上稲田〉の範囲 1893(明治26)年地籍図

道用水の東側住戸が東側に、西側住戸が西側に所有していた。子安用水からの水路に沿ってオモテ・ウラ方向に長い短冊状をなし、所有地内で畦越しに水を送っていた(図3)。

**7. 宅地の形状と屋敷構え** 大道用水両側に並ぶ宅地は、間口約6m奥行き約50mに揃っている。蛇行する大道用水に沿って一定の奥行きとなっている。角橋のカミでは、大道用水の東側が街道となっており、東側の宅地はウラ側で水路に面していた(図4)。西側の宅地は大道用水に面していた(図4 1893年地籍図)。戦前に建てられた住戸(H70)の聞取りから、宅地の中に雁木通りと大道用水沿いのミチとが通されていたとわかった。これは1929年の角橋カミ側の絵図とも一致する。雁木通りとミチがコモンズとなっていたことを示す。1984年の大道用水改修後も、西側のH70ではホンヤ(主屋)前面と大道用水との間に引きがあり、近隣の通行に供するミチがある(図5)。なお、1893年地籍図でE30の宅地奥行きは3筆に、H70の奥行きは2筆に分割されている(図5)。どちらの住戸でも道路側1筆の奥行きが、現存する主屋奥行きと一致する。当時、大道用水両側に雁木町家が建ち並んでいたと考えられる。

**8. 結論** 中央に用水の流れる雁木通り<稲田>では町家のなかに農業を併用する住戸があった。町家の数軒おきにウラ側耕地へ至るサクバミチが派生している。19世紀の地籍図で宅地はウラ側水路またはオモテ側大道用水のいずれかに接していた。生産耕地は屋敷のウラ側とオモテ側の2方向に広がっていた。ミチや水路は、宅地と耕地が対応するように構成されていたとわかった。

注) 本研究のデータは高野亮: 上越市高田地区における雁木町家と水路との対応関係, 新潟大学修士論文, 2012にもとづいている。

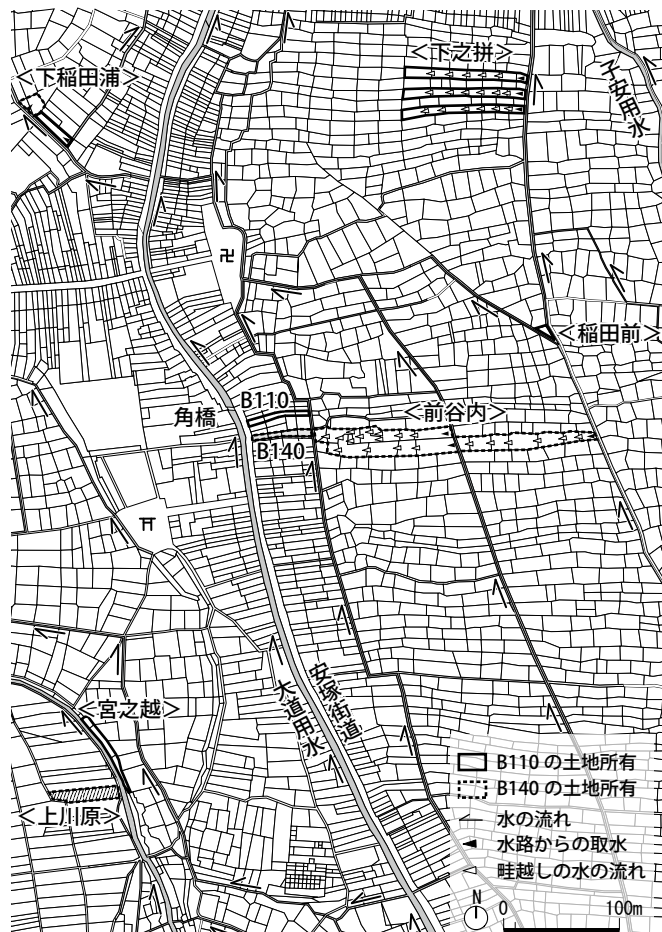


図3 子安用水の水系と所有耕地の広がり 1960年頃

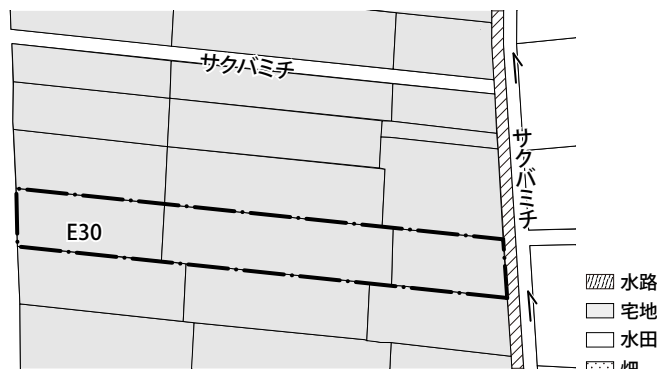
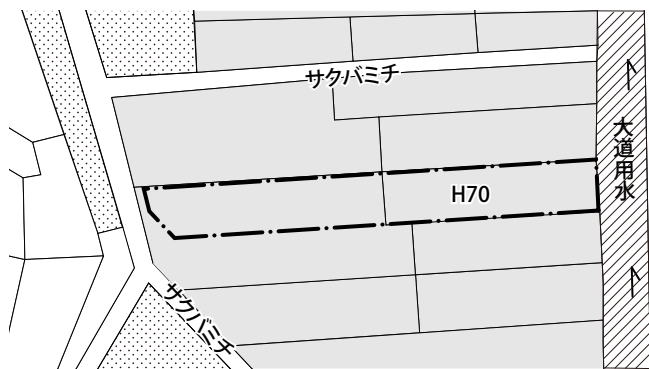


図4 宅地と水路との関係 1893(明治26)年<上稲田>地籍図

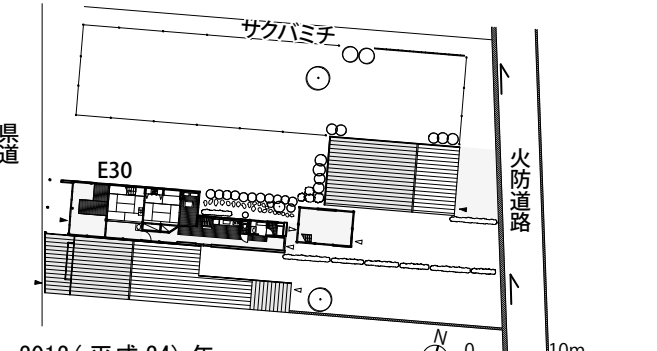
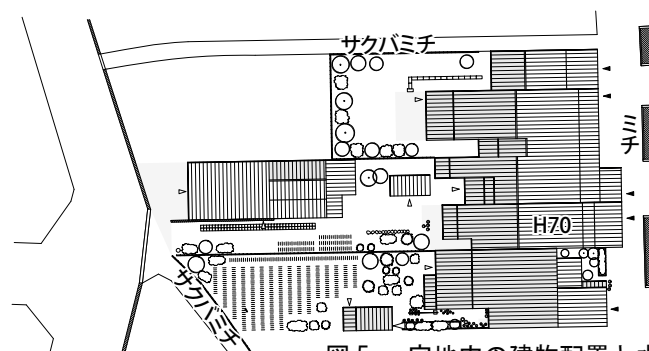


図5 宅地内の建物配置と水路 2012(平成24)年

\* 新潟大学工学部建設学科 准教授・博士(工学)

\*\* 新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程

\* Assoc.Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

\*\* Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.